

キウイフルーツ（果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 （日 数）	使 用 回 数	花 腐 病	か い よ う 病	果 実 軟 腐 病	灰 色 か び 病	す す 斑 病	貯 蔵 病 害 （ 灰 色 か び 病 ）	白 紋 羽 病	ゆ 合 促 進
エコショット顆水	生物農薬	BM2		1	-		◎						
マスタピース水	生物農薬	-		1	-		◎						
I Cボルドー66DFL	無機	M1		*f	-		◎						
Zボルドー水	無機	M1		*h	-	◎							
クプロシールドFL	無機	M1		-	-		◎						
コサイド3000DF	無機	M1		*h *i	-	◎	◎						
ドイツボルドーA水	無機	M1		*g	-	◎	◎						
ストロビーDF	Q o I	11		1	3				◎	◎	◎		
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		1	3					◎			
アグレプト水	抗生物質	25		90	4	◎	◎						
カスミン液	抗生物質	24		90 *e	4 1	◎	◎						
マイシン20水	抗生物質	25		90	4	◎	◎						
ロブラール水	ジ`カルホ`キシト`	2		1 *j	4			◎			◎		
トップジンM水	ベンゾ`イタゾール	1		1	5			◎					
トップジンMペースト	ベンゾ`イタゾール	1		*k	3								◎
ベンレート水	ベンゾ`イタゾール	1		7	5			◎		◎			
アリエッティ水	有機リン	P7		*b	2			◎					
ダコニール1000FL	他	M5		60	7			◎		◎			
フロンサイドSC	他	29		30 *L	1			◎	◎				◎ 苗
ベルコート水	他	M7		1	5			◎	◎		◎		
ナリアWDG	Q o I `アクト`	11 ` 7		1	2			◎	◎	◎			
アグリマイシン-100水	抗生物質・抗生物質	41 ` 25		*a	3	◎	◎						
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24 ` M1		*c *d	4	◎	◎	◎	◎				
カッパーシン水	抗生物質・無機	24 ` M1		*c *d	4	◎	◎	◎	◎				
銅ストマイ水	無機・抗生物質	M1 ` 25		*g	4	◎	◎						

*a:落花期まで *b:幼果期まで(収穫120日前まで) *c:発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで
 *d:休眠期 *e:収穫後～落葉前まで *f:収穫後～発芽前 *g:休眠期～蕾出現前
 *h:休眠期～叢生期(新梢長約10cmまで) *i:収穫後～果実肥大期 *j:開花期～落花期
 *k:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後 *L:植付時
 苗:苗木

キウイフルーツ

キウイフルーツ（果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期（回数）	使用回数	カイガラムシ類	キウイヒメヨコバイ類	カメムシ類	ケムシ類	キイロマイコガ類	スカシバ類	ハマキムシ類	コガネムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ
スカシバコンL	フェロモン	—		*b							キ				
スプレーオイル	天然物由来			*a		◎									
トモノールS	天然物由来			*a		◎									
アブロード水	I GR	16		1	2	幼	◎								
サンマイト水	殺ダニ	21A	劇	14	1		◎								◎
ダニトロンFL	殺ダニ	21A		1	1									◎	◎
フェニックスFL	ゾアミト*	28		7	3				◎	◎	◎	◎			
アドマイヤーFL	ネコチノイト*	4A	劇	*c	2			◎							
アルバリン顆粒 スタークル顆粒	ネコチノイト*	4A		1	3			◎							
ダントツ溶	ネコチノイト*	4A		1	3			◎	◎						
モスピラン顆粒	ネコチノイト*	4A	劇	7	3	◎	◎								
パダンSG溶	ネリスロイト*	14	劇	30	3		◎			◎					
アグロスリン乳	ネリスロイト*	3A	劇	7	3		◎	◎		◎	キ				
アディオン乳	ネリスロイト*	3A		7	5			◎		◎					
スカウトFL	ネリスロイト*	3A	劇	1	5					◎					
マブリック水20	ネリスロイト*	3A	劇	7	2					◎					
スプラサイド水	有機リン	1B	劇	60	3	ク									
アクセルFL	他	22B		1	3				◎						
コテツFL	他	13	劇	1	2		◎						◎		
コルト顆水	他	9B		1	3	ク									
アブロードエースFL	殺ダニ・IGR	21A・16		1	1	◎	◎								

*a:発芽前

*b:成虫発生初期～終期

*c:収穫前日まで（但し露地栽培については発芽期から開花期を除く）

キ:キクビスカシバ

ク:クワシロカイガラムシ

幼:幼虫

キウイフルーツ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
果実軟腐病		・前年の果梗枝・剪定枝を早期に除去する。	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	6月上旬～7月下旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000 (FL) 500～1000倍 トップジンM水和剤● 1000倍 フロンサイドSC 2000倍 ベルコート水和剤 1000倍 ベンレート水和剤● 2000倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	
花腐細菌病		・剪定を十分に行い、風通しを良くする。	#1発芽後は新梢長約10cmまでに散布する。 #2使用時期が遅くなる と薬害のおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用する。
	休眠期～叢生期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 休眠期 500倍 発芽後叢生期まで#1 1000倍 コサイド3000 (DF) #1、#2 2000倍 Zボルドー(水) #1、#2 500倍	
	5月中旬～下旬(開花期前まで)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100水和剤 1000倍 カスミン液剤 400倍 マイシン20水和剤 1000倍	
かいよう病		1. 健全な苗木、穂木を使用する。 2. 風当たりの強い園では、防風対策をする。 3. 病枝は切り取り適切に処分する。 4. 収穫後～発芽前と発芽期～開花期の防除が有効である。	春先の樹液の漏出、発芽期から梅雨明けまでの病徴に、特に注意する。
		・ハサミ等の使用した器具は、ケミクロンG等で消毒する。 ・剪定等の切り口には、癒合促進剤(トップジンMペースト)を塗布する。	
		・次の薬剤のいずれかを散布する。	風雨直後の防除を重点に行う。 #使用時期が遅くなる と薬害のおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用する。
	収穫後～発芽前	I Cボルドー66D (FL) 25～50倍	
収穫後～果実肥大期	コサイド3000 (DF) # 2000倍		

キウイフルーツ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(かいよう病)	休眠期～叢生期	カスミンボルドー(水) 休眠期 500倍 発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで 1000倍	
	休眠期～蕾出現前	銅ストマイ水和剤 600～800倍	
	落花期まで	アグリマイシン-100(水) 1000倍	
	収穫90日前まで	カスミン液剤 400倍	
クワシロカイガラムシ	7月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロード水和剤# 1000倍 スプラサイド水和剤 1500倍	#カイガラムシ類幼虫での登録
キウイヒメヨコバイ	6～11月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイト水和剤 1500～3000倍 パダンSG水溶剤 1500倍	
キイロマイコガ	6月中旬～7月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 1000～2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 マブリック水和剤20 2000倍	
キクビスカシバ	4～5月	・食入が疑われる枝は剪定して除去する。	主な食入部位である1年生枝を中心に散布する。 #スカシバ類での登録
	幼虫が新梢に食入する前～食入初期(4月中旬～下旬)	・次の薬剤を散布する。 フェニックスフロアブル# 4000倍	
カメムシ類	5～7月	・次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 2000倍	
ハダニ類	6～9月	・次の薬剤を散布する。 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	
チャノホコリダニ	6～9月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイト水和剤 1500倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	